

**This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record**

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

## 2. Claims

1. A tape protection case, which is integrally formed by a pair of left and right shafts of tubular construction which are integrated by being laterally fitted together and whose external diameter is smaller than an internal diameter of a winding core of adhesive tape; and by circular flanges whose external diameter is the same size as an external diameter of said adhesive tape, protrusions used to stop sliding being provided in parallel with a circle center line and on a surface of said flanges, and a tape cutter being fixed at these protrusions.

2. The tape protection case according to claim 1, characterized in that said tape cutter is constituted by a tape cutting portion required for cutting adhesive tape, and a tongue-shaped tape receiving portion for holding tape on one end on an extension in another direction from the cutting portion; and in that an interval between said cutting portion and tape receiving portion is of a fixed width to facilitate removal of adhesive tape.

# 公開実用 昭和 61-108257

Laid-Open No.

4/4

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭61-108257

⑪ Int. Cl.

B 65 H 35/07  
75/22  
75/32

識別記号

庁内整理番号

E-8310-3F  
7030-3F  
7030-3F

⑬ 公開 昭和61年(1986)7月9日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 テープ保護ケース

⑮ 実 願 昭59-192794

⑯ 出 願 昭59(1984)12月21日

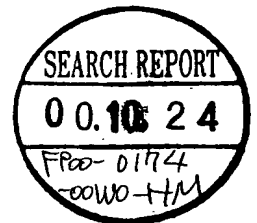
考 案 者 小 野 隆 喜  
考 案 者 片 根 令 智

東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

東京都千代田区外神田2丁目9番9号 日本エスベック株式会社内

出 願 人 日本電気株式会社  
代 理 人 弁理士 村田 幹雄

東京都港区芝5丁目33番1号



## 明 細 書

### 1. 考案の名称

テープ保護ケース

### 2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 粘着テープの巻き芯の内径より小さな外径を持ち左右をはめ込んで一体となる左右一對の筒状構造の軸と、外径が前記粘着テープの外径と同等の大きさの円形フランジとを一体にて成形し、かつ前記フランジ面上に円の中心線に平行にすべり止め用の突起物を設け、該突起物にテープカッターを固定してなるテープ保護ケース。

(2) テープカッターは、粘着テープを切断する際に必要なテープ切断部と、該切断部他方の延長上の一端にテープを保持用の舌状のテープ受け部とで構成され、前記切断部とテープ受け部の間は粘着テープを取り易くする為の一定の幅を有することを特徴とする実用新案

(1)

実開61-108257

678...

登録請求範囲第1項記載のテープ保護ケース。

3 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は粘着面を持ち環状の巻き芯に巻かれた粘着テープ用のテープ保護ケースに関するものである。

〔従来の技術〕

従来のこの種の装置としては、例えば据え置き式のテープカッター台がある。これを第6図により説明すると、すると、11はテープの内円にはめ込み固定する為のテープ固定部、12はテープカッター台本体、13はテープ差し込み部、14はテープ固定部の軸受けをそれぞれ示す。即ち、粘着力を持ち環状の巻き芯に巻かれたテープの内径にはめ込み固定するテープ固定部11の中央から出ている軸をテープ差し込み部13に設けてある軸受け14にセットする事でその軸を中心にテープ固定部11と共にテープが回転する仕組みで

ある。

〔 解決すべき問題点 〕

しかしながら、この種のテーブルカッター台はテーブルを固定して切り取り易くする事を目的としていた為、据え置き式となり、重く持ち運び不便であり、また大型である為、場所もとるといふ欠点があつた。また、テーブルの側面の汚れに対する保護については特に注意が払われているという事ではなかつた。更に、これらの欠点によりテーブルをそのまま使用したり、携持する事が行なわれていた。この為時間の経過及びテーブルの使用頻度の増加と共に側面が汚れていき、そのまま使用するとテーブル側面の汚れが黒い線となつて現われ、またテーブル表面に直接文字を書く事のできる種類のテーブルを図面等に使用した場合は過ちにつながるといふ欠点があつた。

〔 問題点の解決手段 〕

本考案は粘着面を持ち環状の巻き芯に巻かれた

テープ（セロハンテープ又はテープ表面に直接文字を書く事のできる種類のテープ等）のテープ側面の汚れを防止することができ、しかも軽量小型で専用のテープカッターをも兼備えたテープ保護ケースを提供せんとするものである。

そのために、本考案は粘着テープの巻き芯内径より小さな外径を持ち左右をはめ込んで一体となる筒状構造の軸と、外径が粘着テープの外径と同等の大きさの円形のフランジとを一体にて成形し、かつフランジ面上に円の中心線に平行にすべり止め用の突起物を設け、該突起物にテープカッターを固定してなるものとしている。

〔実施例〕

第1図は本考案の一実施例であり、同図において鎖線は粘着面を持ち環状の巻き芯に巻かれた粘着テープを示し、1, 2は円形フランジ、3はテープカッターすべり止め用の突起物、4はテープカッター、5, 6及び7はテープカッターの一部

でそれぞれテープ切断部、テープ受け部及び固定部を示す。

テープを切断し、しかもテープの端がテープ保護ケース内へ沈み込まない為にはテープの端を持ち上方に引き上げる事によりテープ保護ケースの筒状構造の軸を中心にテープ全体が回転しテープが引き出され、第1図(a)の鎖線に示す様にテープの端及び粘着面が(a)の左から右へ、すなわちテープカッター4のテープ受け部6を介してテープ切断部5へ送られる様にテープをセットする。これによりテープ粘着面がテープ受け部6とテープ切断部5に粘着し、テープが保護ケース内に沈み込む事がなくなり、次にテープを使用する時テープが取り易くなる。このとき、テープの側面に添ってテープ保護ケースの円形フランジ1, 2が組み付けられる構造である為、防塵・防垢の効果があり、また保護カバー全体がテープに添った構造である為軽量かつ小型になる。



第2図は左右一対構成のテープ保護ケースを分解した時の片側の構成物を示す図で、8は筒状構造の軸の内側部分、9は内側部分8の一部で第3図の筒状構造の軸の外側部分10の内径と直接かみ合う部分であり、はめ込み易く外れ難い機能を実現する為に、(b)に示す様に中央部分を頂点とした傾斜が付けてあり、その最頂部は筒状構造の軸の外側部分10の内径よりやや大きくなっている。この構造により第2図及び第3図に示すそれぞれの構成物をかみ合わせる事により中にテープを保持できる様になる。尚、本実施例では筒状構造の軸の中央部を中心として放射状に8ヶ所配置されている場合を示す。

第3図は左右一対構成のテープ保護ケースを分解した時の他方の構成物を示す図で、10は筒状構造の軸の外側部分で、その内径は第2図で示した内側部分9とかみ合う部分である。

第4図は第2図及び第3図で示したテープ保護

ケースの2つの構成物を組合わせた（左右はめ込んだ）状態の図であり、10が筒状構造の軸でテープ内径と部分的に接する外側部分であり、この外側部分10の外径がテープ内径よりやや小さくなっている事によりテープ取り出し時テープが回転できる様になる。

第5図はテープ保護ケースに取り付ける前のテープカッターを示し、テープをテープ保護ケースに組み込む時は円形フランジ面上に2ヶ平行に配置されたテープカッターすべり止め用の突起物3の間に固定部7を差し込み筒状の軸の内径に添って固定部7の切端を折り曲げる事によつてテープカッターを固定する。

尚、テープを装着する場合は、まず第3図に示す構成物の筒状構造10の外側部分に使用するテープを装着し、次に第2図に示す構成物の筒状構造8を第3図に示す筒状構造の軸10の内側にはめ込む事により装着が行え、その後テープカッタ

テープの粘着面がテープ受け部6からテープ切断部5方向へ向かう様に固定し、この状態でテープの端を取り出しテープの必要な長さをテープ切断部5に合わせる。この時テープはテープ受け部6にも粘着されている。この状態でテープ切断部5を用いてテープを切断する。その後テープはテープ切断部5とテープ受け部6との間に保持され次にテープを使用する際テープを容易に取り出す事ができる。

〔 考案の効果 〕

以上説明した様に本考案によるテープ保護ケースに粘着面を持ち環状の巻き芯に巻かれたテープを装着するとテープ自体の損みがなく、またテープの側面の汚れを防止でき紙の切り貼りの際テープ側面の汚れによるテープ使用後の黒い線がまづたく出ない効果がある。更に、図面、文書上に貼ったテープの上から文字が書ける種類のテープを使用する際に一段とその効果を増す事ができ、ま

た小型軽量である為置く場所を選ばず携帯でき、  
更に汚れないという効果も有する。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は、本考案による実施例で、(a)、(c)は側面図、(b)は正面図、

第2図は、本考案によるテーブル保護ケースを分解した時の片側の構成物を示す図で、(a)、(c)は側面図、(b)は正面図、

第3図は、第2図で示したテーブル保護ケース分解時の他方の図で、(a)、(c)は側面図、(b)は正面図、

第4図は、第2図及び第3図で分解されたテーブル保護ケースをはめ込んだ状態の図で、(a)、(c)は側面図、(b)は正面図、

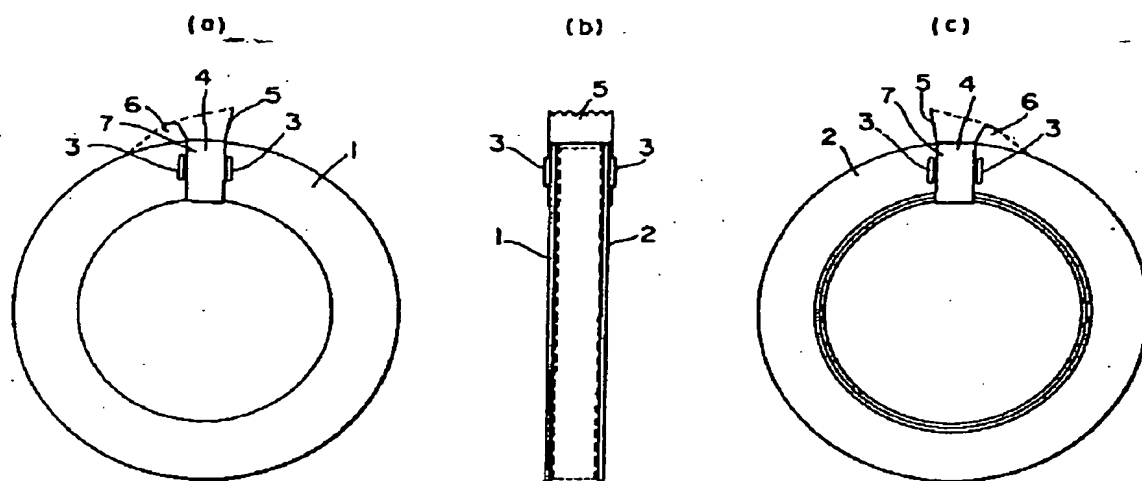
第5図は、テーブルカッターで(b)は側面図、(c)は正面図、(a)は背面図、(d)は平面図、(e)は斜視図、

そして、第6図は、従来のテーブルカッター台で(a)は正面図、(b)は側面図、(c)は上面図、(d)は断面図を示す。

- 1, 2...円形フランジ      3...突起物  
4...テープカッター      5...テープ切断部  
6...テープ受け部      7...固定部

出願人      日本電気株式会社

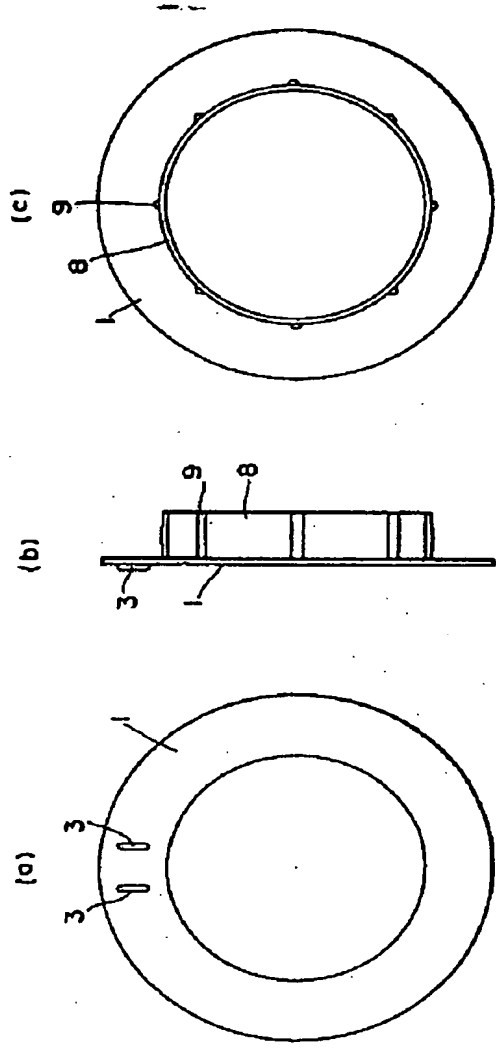
第 1 图



628

代理人 亦 宜 上 村 田 研 究

図 2

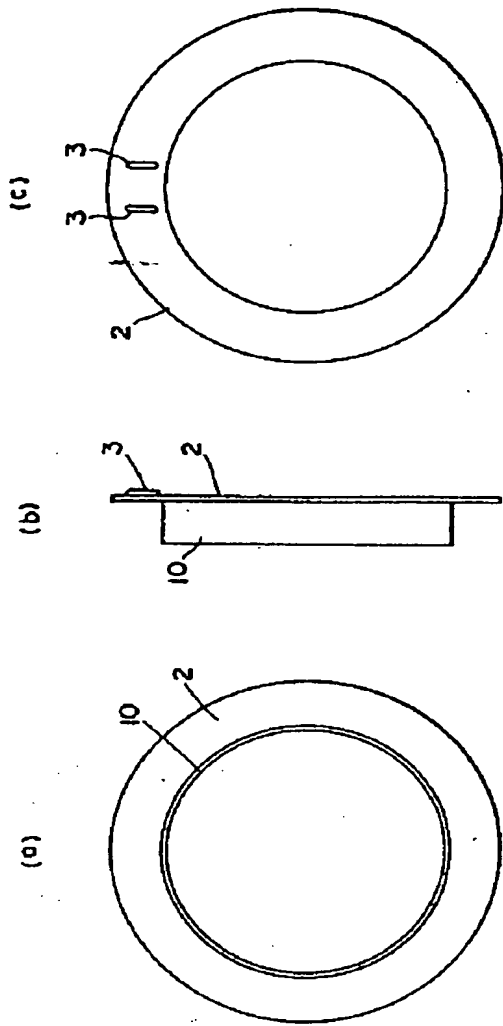


689

実用 昭和 61-108257

代理人 井上 村田 裕雄

第 3 図

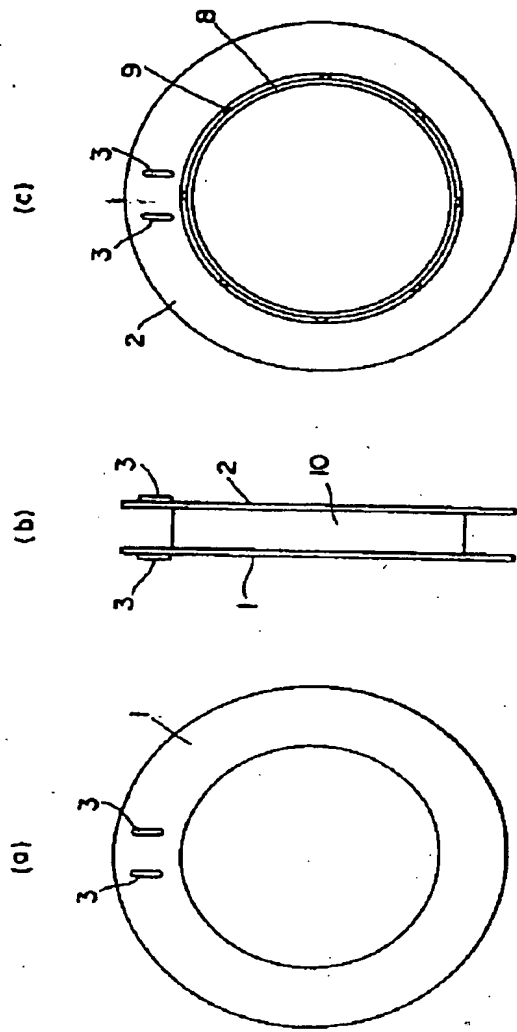


690

実用 昭和 61-108257  
代理人 株式会社 日立製作所



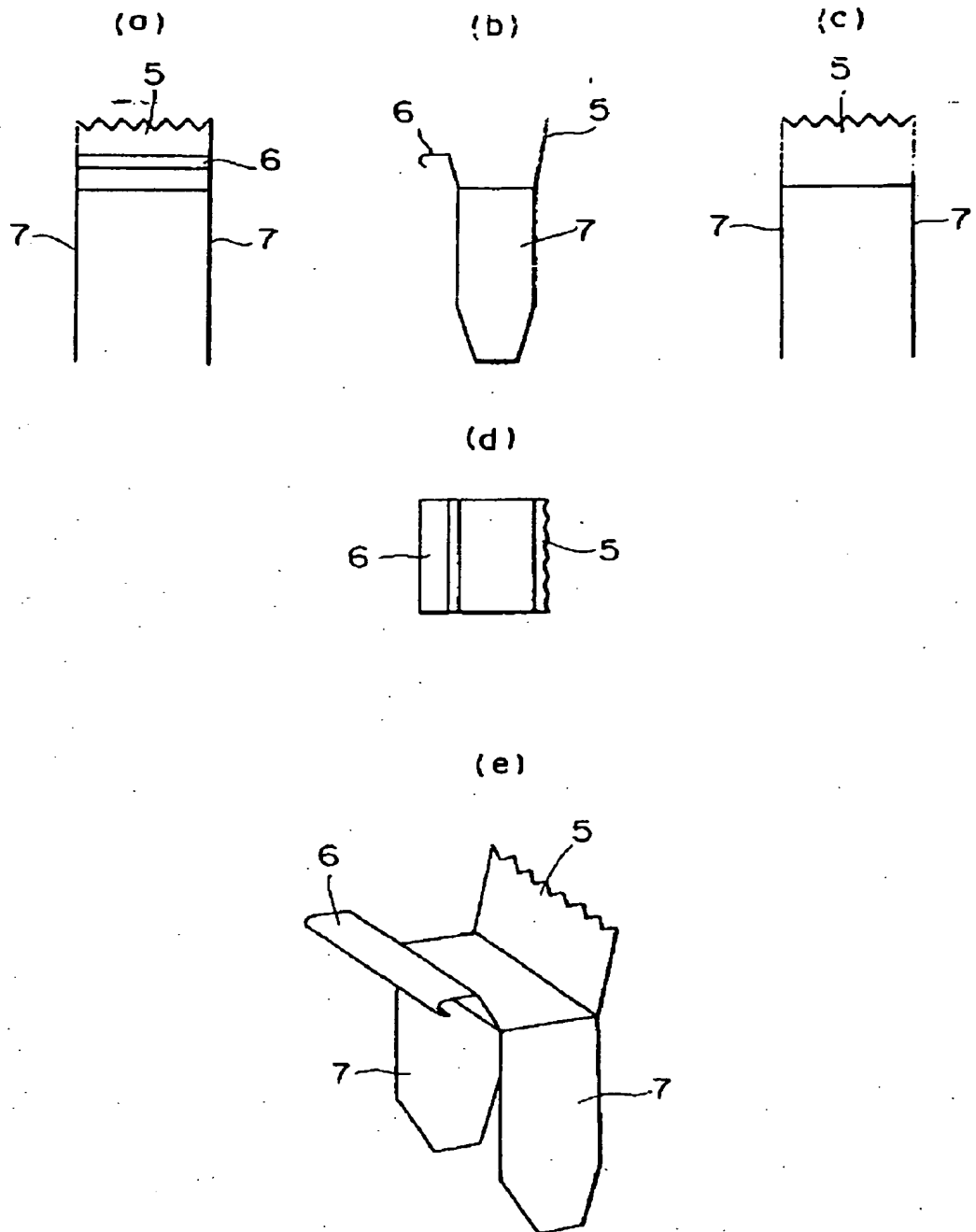
第 4 図



681

美商61-108257  
代理人有馬主計事務所

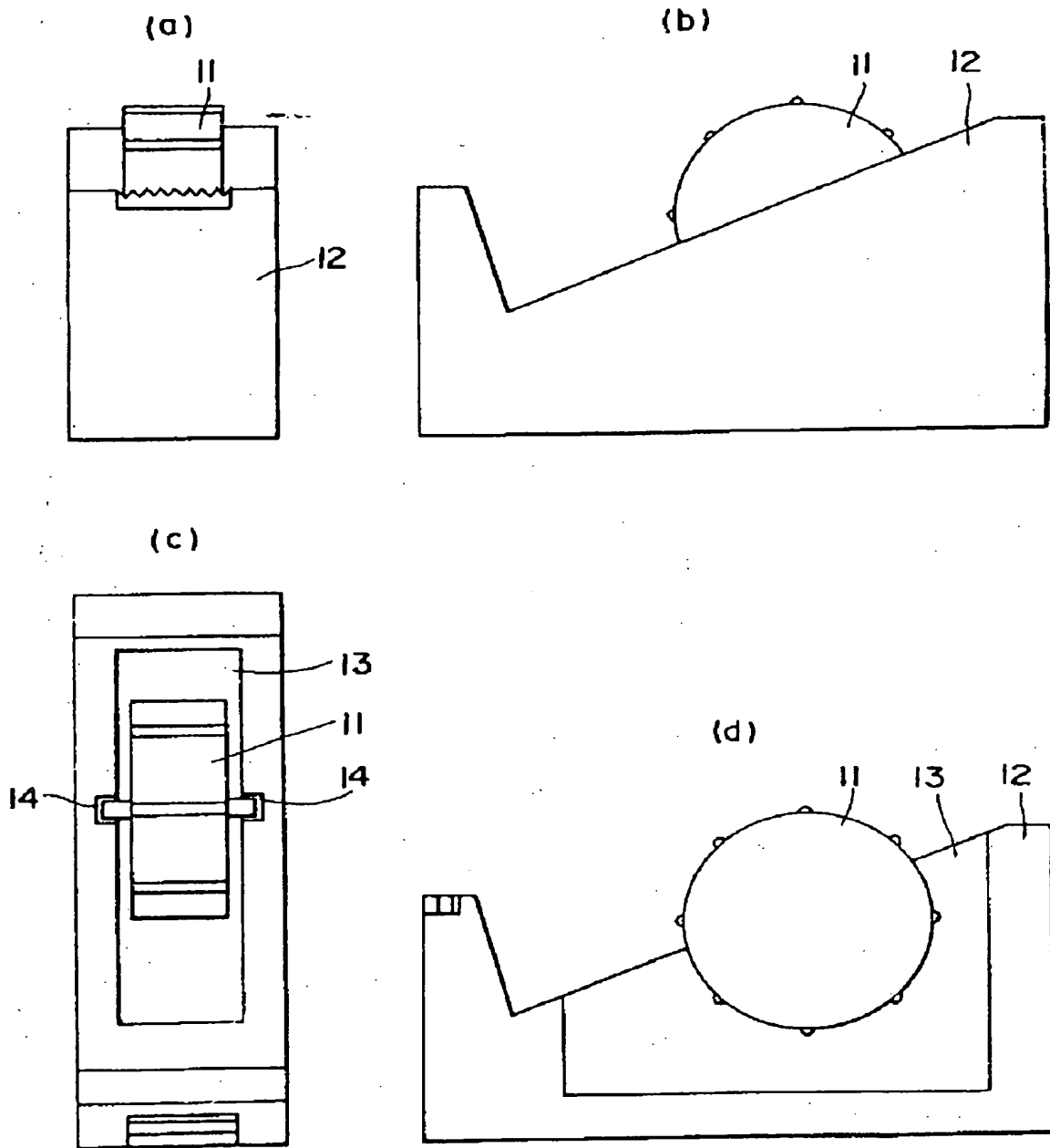
第 5 図



692

実用 61-108257  
代理人 丸尾 上村 田 幹 雄

第 6 图



693

发明(实用新型)名称  
代理人姓名(单位) 姓名